

<p>実践研修②社会学合同研①「生きる（龍ふみえさん）」の講演を聴き、学んだことや今後の実践に生かしていきたいことを教えてください。</p>
<p>小城でも話していただきました。久しぶりに会えましたが、お元気そうで良かったです。 他にも、ヤングケアラーと呼ばれる子どもたちが居ます。少しずつでも力になってあげたいです。</p>
<p>自分も誤った声かけをしてきた1人だった気がします。傾聴ができるようにならなければと感じました。</p>
<p>本日は貴重なお話をありがとうございました。子どもの頃、そして大人現在の話を丁寧に話してくださいました。虐待という今後自分が接する生徒や自分の家族にも関係することもある事案について聴くことが出来ました。言葉で生徒を指導する教員として言葉は重く、深く根付くのだと改めて感じました。</p>
<p>とても心にささるお話をありがとうございました。</p>
<p>最悪の最後を選択したくなるくらい、壮絶な人生を歩まれていて、聞いていてとても辛かったです。途中で聞きたくなくなるくらいでした。生きてきて乗り越えてこられたハードルが多すぎて、私がこれからできることは何もないのではないかと思います。 学校の子どものためにできることは、子どもの話をゆっくり丁寧に傾聴することだと思います。困っていない子や悩んでなさそうな子でも話を聞くことで小さなストレスが減るのではないかと思います。子どもも、教師に心を許すことで話せることもあると思うので、多くの子が「〇〇先生がいてよかったな～」と思えるような先生になりたいです。 今日はお忙しい中貴重なお話をさせていただき、ありがとうございました。</p>
<p>子どもたちのためにやっている、と思うといつまでも他人事のままでのような気がする。私たちがどう育てきたか、どう人と関わっているか見つめ直す機会にできたと思う。</p>
<p>自分語りはとてもつらいことだとは思いますが、貴重なお話しをしていただきありがたかったです。虐待という心を碎かれる経験をされても、支えてくださる方がいらっしやって、今誰かのために生きているという事実が尊いことかと思えます。</p>
<p>龍ふみえさんのお話を聞き、とてもお辛い経験に胸が痛くなりました。実際にこのような経験をされている方がいらっしや、それが過去であっても今も苦しんでいるということに気づき、私達に出来ることは何か考える機会となりました。お話を聞きながら、否定やアドバイスをするのではなく体験したことやその時の気持ちについてしっかり聴くこと、全てを聞き出そうと質問するのではなく「話せることから、話せることだけでいいよ」と声をかけること、そして話してくれてありがとうと感謝を伝えることが大切であり、そのためにはまず子どもの異変に気付く力を身につけなければいけないと思いました。貴重なお話を伺うことができ良かったです。ありがとうございました。</p>
<p>今までの想いを知ることができて自分自身の過去の発言がどう影響していったのかわからないが、気になってしまった。</p>
<p>小城で話していただいたときには聞けなかった話もあって、より理解が深まりました。今回は読み原稿を準備されたようでしたが、以前は思い出しながら湧き出てくるように話をされていたのが印象的でした。一長一短あるかと思います。</p>
<p>胸が苦しくなりました。今、目の前の子どもの中にも助けを出せない子がいるかも、と想像しました。 今まで、何気ない一言が傷つけていたのではと思えてなりません。些細な訴えにも、子どもの声にしっかり耳を傾けていこうと思います。</p>
<p>寄り添うこと、傾聴することなど多くのことを学ぶことができました。今後の困り感のある子どもたちの支援の参考に参考にさせていただきたいと多いです。</p>
<p>私たちが経験したことのない（これまでの生徒対応を含め）話であった。ずっと言われ続けた話を聴く、この姿勢は忘れてはいけない。</p>
<p>当事者でなければわからない、語ることでできない内容だったと思います。開示するのもお辛いだろうと思いますし、その辛さはそれ想像することしかできませんが、しっかり記憶に留めておきたいと思います。</p>
<p>「人とのつながりの大切さ」というのが印象的でした。壮絶な体験の連続に圧倒されましたが、そういう体験から少しでも救われているのは、やはり「人とのつながり」なんだということもわかりました。対おとな、対子ども、すべての人とのつながりを大切にできる人でいたいと思いました。</p>
<p>龍さんが自分のことを話した時に返された言葉が、時には責める言葉となってしまいかねずに心を痛められたという話に、教師として自分を振り返り考えていかなければならないと思った</p>
<p>つらい思いをしても言えない子を見つけ出すアンテナとそのような子が心を許して話せる存在と居場所づくりが大切だと思いました。自分がこのような存在になることはもちろんだが、それだけでは救えない児童はたくさんいます。お話にもあった子どもたちに寄り添う図書室の先生のように話を聞いてくれて居場所を提供してくれる役割ができる存在・場所が各学校に必要ですね。</p>
<p>自分の経験を後の世代の人たちのために役立てようとする気持ちがすばらしいと感じました。</p>

<p>龍さんの話を聞き、こちらまで苦しくなるような内容で、「自分にできることをしていかなければ」と強く思いました。自分にできることは、子どもたちの小さな変化でも見逃さず、気づくこと、子どもたちの話を聞くこと、寄り添うことかなと思います。</p>
<p>龍さんの壮絶な人生に言葉を失いました。幼い頃に経験されたときの心の傷は大きいものだと感じました。当事者ではない第三者である大人（教員）からの配慮のない発言はあまりにも無責任であってはならない対応であったと思います。「笑顔で話してくれることが一番の支え」とおっしゃっていたのは、まさに龍さんが当時必要とされていたものなのだろうと感じます。教員としてその生徒が何を求めているのかをしっかりと聴いてあげられる態度が自分に備わっていることが必要だと思う。</p>
<p>「生きる」ことの大変さ、こんなにつらい思いをされている方の生の話を聞くことができ、そういう思いをしている子どもたちのサインを見逃さずに指導を行っていきたいと思いました。</p>
<p>「この苦しみを味わうのは私たちだけでいい」という言葉はすべての人権課題に通じるものだと思います。その切実な思いを受け止めて、同じような境遇の子どもがいたら接していきたいと思いました。</p>
<p>虐待の話は聞いていてつらくなる。でも現実にはそういう体験をした子どもは龍さんだけでなく、今もいる。安心して生きることができるよう、今日は言葉かけの二次被害の話も聞いて声かけについて考えることができた</p>
<p>困っている方が勇気を出して話をしようとしているときには話しやすい雰囲気づくりとしっかり傾聴することが重要であると学びました。</p>
<p>自分の辛いことを話していただき、ありがとうございました。相手の立場に立って考えながら聞いていたのですが・・・当時の気持ちを想像することはできませんでした。今の気持ちも同じです。これから自分にできることは、困っている子どもの話をじっくり聞いたり、こちら側から話しかけたりしながら実態把握をし、問題解決をしたりしていきます。</p>
<p>私が龍さんの立場だったら、耐えきれなくて逃げ出したり、死を選んだりしていたのではないかと思います。今は小さなサインに気づけるようになったり話を傾聴することに徹したりしていけるように努めたいと思います。また、相手を否定しないことも心がけていきたいと思います。</p>
<p>性的虐待についての貴重な話をしていただき、ありがとうございました。生徒が悩みをもっていたら時間をかけてゆっくり傾聴しなければならぬと思いました。</p>
<p>人に話すのは本当につらいお話であったと思います。これから、いろいろなものを抱えている子どもたちとの関わりのなかで、思いを受けとめ寄り添っていけるように、自分にできることを見つけたいと思います</p>
<p>ご自身の体験をありのままにお話しされ、自ら会を立ちあげられ、このような体験をされる方をなくしていく必要があると感じています。やはり、家庭も職場も自分の居場所があり、「いごちがいい場所」をつくっていく必要があると思います。困っている人、悩んでいる人の相談を受ける場所があれば、早めに解決の道が開けていくのではないかと感じました。</p>
<p>当事者でなければわからない、心身ともの苦しみを共有・共感することの難しさ。申し訳なかったです。</p>
<p>子どもころに虐待を受けた当事者の方の話を始めて聞きました。思い出すのもいやな苦しい体験を私たちのために話してもらい、虐待をなくしていこうという強い思いを感じました。アバンセなども協力し、多くの方が虐待に関心をもって正しく理解して解決する手だてを考えていくことが大切です。</p>
<p>虐待防止の手がさしのべられることなく、ずっと一人で耐えてきた子ども時代だったということですね。だれかが気づき、支援につながらないといけなかったと思います。お医者さん、学校の先生などしっかり傾聴してほしかったと思います。図書館の先生や事務りゅうさんのような方と出会えたことで救われたと思います。</p>
<p>父からの虐待、母からは守ってもらえなかったふみえさんのお話で大変重い気持ちになっていましたが、亡くなる前に「あなたとのこの時間が一番幸せ」という言葉で「全てが許せ、母親のことを愛おしくなった」というお話に、この問題の深さを感じました</p>
<p>「一人では生きていけない」と簡単に言うけれど、龍さんをささえてくれた人、縁があって出会った人等がどこかで大なり小なり支援をされたからこそ、また、龍さん自身も安心・安全な居場所ができたのではないかと思います。今後の活動を祈念いたします。とても勉強になりました。人権教育の大切さが身にしみます。</p>
<p>自身の経験を話してくださり、とても胸に響きました。ありがとうございました。</p>
<p>淡々と話される経験談でしたが、「生きる」ことのむずかしさを考えさせられました。</p>
<p>言葉かけの難しさ、傾聴の大切さ、笑顔の大切さ、否定をしない話の聞き方（話せる安心、一息いれる）</p>

<p>つらい体験、お話しありがとうございました。虐待の体験も増加の一途をたどっています。自分たちの周りにも被害にあっている子どもがいるかもしれません。何が自分にできるのかを考えさせられました。</p>
<p>龍さん自身のことを（つらいこと）話してくださり、大変感謝します。ご両親のことより、当時の学校の先生の対応には疑問を感じます。過去のつらい経験から今の活動をされていることに敬意を払います。図書館、自分の居場所を作っていた先生がよかったと思います。</p>
<p>子どもの相談や問いかけに、大人は悪気がなくてもその一言が将来その子にとっては心の傷になるということに心がけながら対応しないといけないと感じた。言葉、声かけの大切さを改めて感じた。</p>
<p>自分の言葉で体験や思いを聞かせていただき、ありがとうございました。私の方が励まされました。目の前の困っている方が居たら、信頼してもらえるような人間形成に努めたい。</p>
<p>とても興味深い研修会でした。今まで現在の虐待ばかり目がいっていたのですが、大人になっても子どもの頃の虐待に悩んでいる方々の話をぞんぶんに聞けました。傾聴することの大切さ、それが相手の話を引き出すきっかけになると教えて頂きました。励ます言葉は励ますことではないことも教えて頂きました。</p>
<p>この言葉は聞いたことはあったが、あまりピンときていなかった。今回、詳しく聞くことができよかった。「傾聴」の大切さが身にしみた。子どもころの傷（心・身体）は大人になっても癒えないということを考え、苦しくなった。</p>
<p>子どもは弱い立場で、嫌（おかしい、これは間違っている）と思っても親の言うことや担任の言うことに従うことしかできません。つらい時に、話を聞いてくれる人がいることが救いになるのかなと思います。どうすれば、同じ思いをしているような子どもに手を差し伸べることができるのか、考えさせられました。サインに気づくということも参考になりました。</p>
<p>人との接し方、自分の子どもとの関わり方、色々と考えさせられました。辛い体験をお話しいただきありがとうございました。</p>
<p>子どもころに受けた父親からの様々な虐待、とつてもつらかったらと思う。それが、大人になっても影響しているとは知りませんでした。これからの佐賀県の子どもたち、いや、全国の子どもたちへの虐待をなくしていきましょう。</p>
<p>公共施設等に「しょうりゅうのつどい」のチラシを見かけたことがありました。龍さんの話を初めて聞いて、あまりのことに言葉が見つかりません。話してくださり、ありがとうございました。</p>
<p>自らの被害を話すのは大変苦しいでしょうが、同じ被害にあうことが今後なくなるため、一生懸命に話されるのが印象的でした。</p>
<p>去年、DVから避難していた子の姿を重ねながら聴いていました。龍さんのように支援がなくて大人になったのではなく、早い段階で福祉の支援が受けられた子でしたが、それでも心の不安定さはなかなか解消されなかった。たくさんの大人が連携して、長い支援を続けて見守り続けていくことが不可欠だと改めて思いました。また、今回の話を聴いて、何歳からでも立ち直りのチャンスがあることも感じました。また、居場所づくりの重要性も再認識しました。</p>
<p>まず自分の生い立ちをすべてお話された龍さんの勇気とその意識について、敬意を表したいと思います。たしかにすでに再任用期間も終了したわたしが育った時代は、先生方からの愛の鞭に、父親からの愛の鞭がなかったわけではありません。しかし、龍さんが語られたように「人格形成に大きな支障をきたしたであろうと思われるような体罰」は経験していませんし、認識はなかったと思います。しかし、それは私の認識ゆえの問題点であろうと思わざるを得ないお話だったと思います。そう思えるのは、社会全体における体罰・暴力への意識が大きく変化していることから明確だと思えます。つまり以前の社会には龍さんが経験されたような体罰や暴力がまかり通っていたのでしょう。それがまかり通らない社会になっていることを喜びにしておかなければならないし、そのような体罰や暴力が支配した社会の形成に関与したのがなんであったのかを明確にすべきでしょう。その点はさておいて、龍さんが経験されたような暴力が、今の社会全体から消えたかということ、そうではないようなニュースは後を絶ちません。つまり社会一般の規範意識からは消えつつある暴力観を排除しつつ、陰に隠れがちなその被害者に目を向ける取り組み（研修）が必要でしょう。また被害者を支援していく取り組みも必要であろうと思います。そうすることによって、一人一人の教師が、龍さんの立場にある子どもたち、一人一人に気付き、対応できていくであろうと思われれます。そういった意味では、本研修の内容に関しても、各地区同研で広げていく内容であろうと思われれますが、これもまたなかなか難しいですね。</p>
<p>あまりにも重い話で、軽々しく理解できたというのは失礼なように感じた。勤務校でも、ネグレクトや児童虐待の対象となっていた、現在もなっている生徒もいるので、非常に参考になった。本校に講演に来ていただきたいと感じた。</p>
<p>辛いことがある人にとってきちんと話を聞いてもらえる場それを真剣に聞いてくれる人、つながっていることが大切だと気づいた。</p>

これまで壮絶な経験をされたことに胸が締め付けられる思いであったが、たった一人との出会いがこれほどまでに人を変えることに衝撃を受けた。

自分も「傾聴」することを忘れず、困りごとを抱えている人の支えになりたいと思った。

ご自身の体験を通して、自分の家族関係や生い立ちなど講話していただき、ありがとうございました。現在でも虐待やネグレクト、ヤングケアラーなど家庭内の問題で、子どもたちが苦しんでいるので、「しょうりゅうのつどい」のような活動をされていることに感謝申し上げます。

一言でいうと感想を言うことも難しいと感じるお話でした。龍さんにとってしょうりゅうのつどいがどのような場所なのかお話を聞く中で伝わってきました。高崎さんのコーディネーターのやり方も的確で、すばらしかったです。真似したいと思いました。